



**マーベル・コミックス編集長 C.B.セブルスキーが
普段は公開されない制作現場や仕事内容を紹介！
DJ LOVEさんも登場、マーベルとEnd of the World (SEKAI NO OWARI)が共作した
カスタムコミックの実物や特別トレーラー映像を初公開！**

ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社（本社：東京都港区）は、11月30日（金）から12月2日の日程で開催中の「東京コミックコンベンション2018（略称：東京コミコン2018）」にて、スター・ウォーズとマーベルのブースを出展しています。

12月1日（土）には、マーベル・コミックス編集長C.B.セブルスキーが、就任後日本では初のトーク・セッションを行いました。C.B.は、世界中に多くのファンを持つマーベル・コミックスの制作現場や、編集長の仕事内容を紹介しました。

また、マーベルとEnd of the World（SEKAI NO OWARI）が2年前より共にゼロから創り上げた、マーベルのカスタムコミック「End of the World」の実物や特別トレーラー映像をこの場で初公開しました。さらに、サプライズゲストとして、End of the World（SEKAI NO OWARI）のDJ LOVEさんが駆けつけ、多くのファンと一緒に会場を盛り上げました。



本トーク・セッションでは、マーベル・コミックス編集長の仕事や役割に少しでも触れていただくべく、「ある日のC.B.」と題して、一日のタイムスケジュールを紹介したり、普段は一般公開されていないNY本社内部の写真とともに「バーチャルオフィスツアー」を体験してもらいました。

また、トーク・セッション中盤では、End of the World（SEKAI NO OWARI）のDJ LOVEさんが登場し、今回のスペシャルプロジェクトについて紹介しました。このカスタムコミックは、End of the World（SEKAI NO OWARI）のバンドメンバー4人をベースにしたオリジナルで、C.B.とメンバー4人がゼロから制作に関わり、数回にわたるプレスト会議などを重ね、制作期間約2年を経て完成させました。ステージ上では、このコラボレーション制作に対する想いや共通の世界観など、共に一つのを創り上げた熱い思いを改めて語り合いました。ロックバンドとのマーベルによるカスタムコミックは、KISS、THE FLAMING LIPS 以来本作品が三作目、そしてアジアでは初めてとなります。

さらに、この作品をもとにMVが制作され、その過程を追ったドキュメンタリー番組「Re:IMAGINE」のトレーラー映像が初めて放映され、会場を沸かせました。



■C.B.セブンスキーによるトーク・セッション

「マーベルのアーティストは全世界にいますので、世界各地にいる彼らと常に連絡をとれるようにしている」

冒頭挨拶では「2年前にコミコンに来た時と比べて、イベントが大きく成長していて驚いています。またこんなに多くのファンの皆さんがマーベルを愛して応援してくださって感謝しきれません」とコメント。

トークショーでは、編集者としての一日をタイムスケジュールで紹介。C.B.は「私の一日は朝ベッドの上で目を覚まし、ソーシャルメディアでファンの皆さんの様子をチェックすることから始まります。ファンのみなさんといつも繋がりたいと思っているので是非、SNSをフォローしてください」とファンに伝え、会場から「フォローしているよ」の声や拍手があがりました。また、朝の出勤前と夜の就寝前にメール&スクリプトチェックの時間があることについては「マーベルのアーティストは全世界にいますので、世界各地にいる彼らと常に連絡をとれるようにしている」と語り、編集長としての多忙な一面が伺えました。

また、マーベル・コミックス本社の様子を写真で紹介しながらのトークショーでは、直近のマーベル・コミックスが壁一面に飾られているカバーウォールや、スパイダーマン、アイアンマン、ハルクといったマーベルヒーローたちの名前がついた会議室があり、そこにはアイアンマンやウォーマシン、アントマンやウィンター・ソルジャーなどの等身大立像が飾られていることを公開。「私はこの仕事場に向かうのが本当に大好きで、社内を歩き回るだけでも素晴らしく、インスピレーションを得られる場所です。」と語りました。





■DJ LOVE さんがサプライズ登場! C.B.セプルスキー×DJ LOVE クロストーク

「本当に素晴らしい経験ができました。マーベル好きの友達にめちゃくちゃ自慢したいです！」

元々マーベルのファンであったDJ LOVE さんは、今回のカスタムコミック「End of the World」のプロジェクトについて、終始感激した様子でトークを展開。特に、完成したカスタムコミックを初めて見た時の感想として、「こんな風になるんだ!と、とても感動しました」と語りました。また、C.B.は、「End of the World (SEKAI NO OWARI) が創造する“ストーリーテリング”な世界観は、マーベルとぴったりだと思いました」と述べ、このスペシャルプロジェクトにかけた想いを語りました。また制作中に、C.B.から他のマーベルヒーローとの共演も提案されたとのことで、DJ LOVE さんは、「いや～勝てないでしょ (笑) と思ったけど、実際にコミックを見ると感動しました」と語り、会場を沸かせました。

最後にDJ LOVE さんは、「本当に素晴らしい経験ができました。マーベル好きの友達にめちゃくちゃ自慢したいです!」とコメントし、C.B.セプルスキーは、「クリエイティビティあふれる二つの力が合わさって、特別なものを生み出しました。みなさんにはぜひこの作品を愛してほしいです」と語り、さらに「われわれを End of the World (SEKAI NO OWARI) の世界に入れていただいたことに感謝します。(DJ LOVE さんに向かって) そして、マーベルへようこそ!」と締めくくりました。

